

第6回TIAナノエレクトロニクス・ナノテクノロジーサマースクール開催報告



大野 裕三教授
 筑波大学数理物質系

産業技術総合研究所(産総研)と筑波大学の共同主催のもと、8月28日から8月31日の日程で開催されました。企画・運営を行った大野裕三教授(筑波大学)にお話を伺いました。

第6回ナノエレクトロニクス・ナノテクノロジーサマースクールが8月28日から8月31日までの4日間で開催されました。本スクールは昨年度と同様に、講義では最先端LSI技術を中心に将来のナノエレクトロニクス技術の展開の他、今年度は脳のリバースエンジニアリングと創発コンピューティング、シリコンフォトニクスについて講義し、設計実習やSCR見学を体験するとともに、ポスターセッションを実施して参加者相互の研究の紹介・異分野の理解を図りました。参加者は5名で、学生および企業から2名の参加者がありました。

スクール1日目はICの基礎を学んだ後、デバイス物理について深く掘り下げた講義が行われた後、微細加工の中核をなすリソグラフィ技術とウェット洗浄技術の講義が行われました。2日目は、TCAD実習とSCR棟の見学が実施され、デバイス・プロセスシミュレーションと製造現場を実体験し貴重な経験が得られたと思います。3日目は極薄膜技術とバックエンドプロセスについて講義が行われ、最新の半導体デバイス作成プロセスと多層配線技術について講義が行われました。午後には「TIAナノグリーン・サマースクール」と合同のポスターセッションが昨年に引き続き開催され、企業アドバイザーにも参加いただき、異分野との共同研究提案(レポート)までの深い相互理解を促進しました。

最終日は脳のリバースエンジニアリングと創発コンピューティングの講義のあと、シリコンフォトニクスの講義が行われました。最後は新ゲート絶縁膜について講義が行われました。最終日には修了証が手渡され、1名の修了生に奨励賞が授与されました。参加者が予定定員より少なかったことは残念ですが、第6回目の本スクールは過去のサマースクールのエッセンスを残したまま、さらに発展し、今後の新しい展開に向けてつながっていくことを期待します。

講師・受講生ともに熱心な講義風景

奨励賞の授与



ポスターセッション

交流会での自己紹介



開催日	2018年8月28日(火)~8月31日(金)
会場	筑波大学総合研究棟B、産業技術総合研究所つくば西 TIA連携棟
主催(共同開催)	筑波大学大学院 数理物質科学研究科、産業技術総合研究所つくばTIA推進センター
後援	公益社団法人 日本工学会
構成	講義9コマ+ポスターセッション(レポート提出)+ TCAD実習 + SCR見学
参加者数	5名(大学院生2名、企業2名、一般1名) ※内 単位取得希望者: 1名
修了証	4名に授与
表彰者	奨励賞 1名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。

<https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1 Tel. 029-853-5891 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp